

令和8年度 学校経営方針

1 本校の教育目標

- 思いやり 助け合う子ども【相手意識・感謝の心】
相手意識と感謝の気持ちを言動に表せる子ども
- ◎自ら考え すすんで学ぶ子ども【主体性】
自分たちで考え 自分たちで決定し 自ら学校生活と自分自身を創り上げる子ども
- 元気で 丈夫な子ども【心身の健康・自己指導能力】
すすんで心と体を鍛え、前向きに行動する児童

2 目指す学校像【子どもたち一人一人を大切にできる学校】

- 児童「自分たちで考え、自分たちで決定し、自分たちで学校生活を創り上げる子ども」(自己選択、自己決定、自己実現)
 - ・自分から主体的に行動する子ども
 - ・相手意識、感謝の気持ちを大切にできる子ども
 - ・心も身体も健康な子ども
- 保護者・地域「安心して任せられるみんなの学校」
 - ・安心できる学校 チーム学年担任制(多くの目で子どもを見守り、コミュニケーションを密に、迅速・誠実な対応)
 - ・開かれた学校 教育活動の積極的な発信(保護者会、学校便り、学校HP、すぐーる、来校機会の確保等)
 - ・みんなの学校 協働・連携(コミュニティ・スクールとして学校運営協議会・地域学校協働本部、PTA、地域団体との協働)
- 教職員「自己実現できる職場」
 - ・明るく信頼し合える職場(何でも相談できる仲間 支え合うチーム学年担任制 コミュニケーションを大切に)
 - ・やりがいを感じられる職場(対話を通してボトムアップ 全員が当事者意識を)
 - ・互いに成長できる職場(常に自分をアップデートする意識 学び、成長する機会の確保 職に誇りと責任を)

3 学校の教育目標を達成するための基本方針(教育課程より)

(1)「思いやり 助け合う子ども」を育成するために

- ・いじめ・偏見・差別を生み出さないために、教育活動全体を通じて人権教育・道徳教育・命の教育の充実、規範意識・豊かな心の醸成
- ・相手意識・感謝の気持ちを身に付けるための指導基準の明確化、共有、継続、徹底
- ・よりよい集団や社会をつくる力を育成する特別活動の充実
- ・特別支援教育を充実させ、保護者・関係諸機関・全教職員と連携、個に応じた多様な指導方法の工夫・改善・合理的配慮の推進

(2)「自ら考え すすんで学ぶ子ども」を育成するために

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等の育成
- ・校内研究・OJT等を充実、問題解決学習、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、授業改善
- ・一人1台モバイル端末の効果的な活用による個別最適な学び、協働的な学びの推進
- ・地域素材(特色・自然・文化)を取り入れた体験学習の実施

(3)「元気で 丈夫な子ども」を育成するために

- ・発達支持的生徒指導による自己指導能力や危機回避能力の育成
- ・不登校を未然に防ぐために、「居場所づくり」「絆づくり」の推進
- ・子どもが主体的に「運動に親しむ・楽しむ」ために体育科の授業改善を図り、生涯に渡り運動を楽しむ資質や能力を育成(チョコプラ1調布、ダブルダッチの取組)
- ・食育の推進と給食の授業化による健康教育の充実

(4) 教育目標達成に向けたその他の事項

- ・コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を中心に、地域学校協働本部を活用した「地域とともにある学校づくり」
- ・「こども基本法」の理念に基づいた「子どもが主役の学校づくり」

4 今年度の学校運営の重点

○学年担任制の定着

- ・教科担任、給食指導、朝・帰りの会、児童理解、生活指導、保護者対応等、全ての教育活動にチームで関わる

○カリキュラムマネジメントの日常化

- ・教科等横断的な視点での教育内容の編成
- ・教育活動の質の向上を図る PDCA サイクルの確立
- ・地域・家庭との連携、地域人材や地域素材の活用
- ・教科と教科、生活科、総合的な学習の時間などの関連付け

○相手意識、感謝の気持ち、丁寧な挨拶を身に付けさせる取組の継続

- ・先言後礼、5秒の礼だけではなく、登校時、下校時、来客、廊下等での日常の挨拶も大切にする

○食育重視の継続

○「子どもたちが自ら学校生活と自分自身を創り上げていく」ためのカリキュラムマネジメント

○校内研究・OJT、教員研修の充実

○特別活動のスキルアップ

- ・子どもたちが自分たちで話し合い、選び、決められるよう、学級活動（話し合い活動）の向上
- ・学校行事、児童会活動（代表委員会や委員会活動）、クラブ活動も含めて、「子ども主体」に

○特別支援教育のスキルアップ

- ・「一人一人の子どもの行動には、必ず理由がある」アセスメントの大切さ

○子どもたちのコミュニケーション力を高める

- ・遊びの工夫、ソーシャルスキル・トレーニング等の研修の実施
- ・宿泊行事へのソーシャルスキル・トレーニング等の導入

○校内通級での指導を、ふだんの教育活動の中に取り入れる

○不登校児童に対する対応の共通理解

- ・校内別室＝グリーンルームの整備、欠員になっているスクール・サポーター、市スクール・カウンセラー等の対策

○子どもたちの読書量、図書館活用時間の確保

- ・想像力、思いやり、言葉の力、集中力、学力等を高める

○学校HPを充実させ、学校の様子を積極的に保護者・地域に向けて発信する

○様々なゲストティーチャーを活用して、体験学習を重視する

- ・コミュニティ・スクールとしてさらに地域人材の活用を図る

「子どもも、大人も、行動には必ず理由がある」